

第1問

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、設問ごとに最も適当と思われるものを選び、答案用紙の（ ）の中に記号で解答すること。

1. 建設会社に営業用倉庫の建築を総額 ¥7,200,000 で請け負わせていたが、本日、工事が完了し、倉庫の引渡しを受けるのと同時に、工事代金の残金 ¥2,400,000 を小切手を振り出して支払った。なお、工事代金のうち ¥4,800,000 はすでに支払済みである。

- | | | | |
|----------|---------|--------|--------|
| ア. 現金 | イ. 当座預金 | ウ. 前払金 | エ. 建物 |
| オ. 建設仮勘定 | カ. 仮払金 | キ. 未払金 | ク. 修繕費 |

2. 以前に不用となった営業用の土地を売却した際の債権 ¥3,500,000 について、電子債権記録機関から取引銀行を通じて債権の発生記録の通知を受けた。

- | | | | |
|--------|--------------|------------|--------------|
| ア. 売掛金 | イ. 受取手形 | ウ. 未収入金 | エ. 営業外電子記録債権 |
| オ. 土地 | カ. 営業外電子記録債務 | キ. 固定資産売却益 | ク. 固定資産売却損 |

3. 6月1日に商品A（原価：¥33,000）と商品B（原価：¥21,000）を、それぞれ ¥55,000 および ¥35,000 で販売する契約を締結した。商品Aの引渡しと商品Bの引渡しは、それぞれ独立した履行義務として識別している。また、契約上、商品Aの対価の支払いは、商品Bの引渡しを条件とする。6月10日に商品Aを引き渡し、適切に処理していた。本日（7月1日）、商品Bを引き渡した。契約の対価合計 ¥90,000 は、7月末に当社の普通預金に振り込まれる予定である。なお、当社は、商品売上の記帳方法として販売のつど売上原価勘定に振り替える方法を採用している。

- | | | | |
|---------|--------|---------|---------|
| ア. 普通預金 | イ. 売掛金 | ウ. 契約資産 | エ. 商品 |
| オ. 契約負債 | カ. 売上 | キ. 仕入 | ク. 売上原価 |

4. X1年度決算において、売掛金の期末残高 ¥16,000,000 に対して2%の貸倒引当金を設定した（処理済み）が、税法上、1%分の貸倒引当金設定額について、損金算入が認められなかったため、税効果会計を適用した。なお、X0年度期末の貸倒引当金の損金算入限度超過額である一時差異は ¥100,000（X1年度中にすべて解消している）であり、また法人税等の法定実効税率は各期を通じて30%である。

- | | | | |
|-----------|----------|-----------------|------------|
| ア. 売掛金 | イ. 貸倒引当金 | ウ. 繰延税金資産 | エ. 未払法人税等 |
| オ. 繰延税金負債 | カ. 貸倒損失 | キ. 法人税、住民税及び事業税 | ク. 法人税等調整額 |

5. 株主総会において、次のとおり決議した。(1) 利益準備金 ¥90,000 を取り崩し、繰越利益剰余金とする。(2) 繰越利益剰余金を財源として、株主へ ¥500,000 配当し、利益準備金については会社法の定める金額を計上する。なお、前期の決算日における株主資本の内訳は、資本金 ¥10,000,000、資本準備金 ¥1,500,000、利益準備金 ¥1,050,000、繰越利益剰余金 ¥450,000 であった。

- | | | | |
|-------------|----------|------------|----------|
| ア. 現金 | イ. 未払配当金 | ウ. 資本金 | エ. 資本準備金 |
| オ. その他資本剰余金 | カ. 利益準備金 | キ. 繰越利益剰余金 | ク. 別途積立金 |